

## 【企業】2025 年度

「学習成果に関わる外部評価—  
学位プログラムの学習評価を把握するための企業調査」 改善案

担当：服飾学科モードクリエーションコース

文責：主任 安部智子

記入年月日 2025 年 10 月 1 日

【企業からのご意見を踏まえ以下の改善を検討】

### ◆産学連携の実施

従来のモードクリエーションコース産学連携プロジェクトでは、生地などの素材を提供していただき、展示会などでその成果物を発表する形が主であった。素材提供を頂いた企業からの感想は伺っていたが、個々の学生へのフィードバックが十分得られない、教育的効果やコース履修者全員が希望しないなど、いくつかの問題があり、ここ数年は実施していなかった。しかし、産学連携による実践的な経験などを考え、実施に向けた具体的な方法の検討を始める。また、現在学年ごとに実施している特別授業（主に外部の専門家からのレクチャー）の充実を図る。

### ◆コミュニケーション能力のアップ

コミュニケーション能力の向上はここ数年の課題でもある。他者との交渉を苦手と考える学生が少なからずいる現在、数年前から 3 年次に授業内でグループ制作の機会を 1 年間で複数回行っている。特に大学祭に向けた課題では、必ず留学生をグループに含めることなど「いつもの仲間」とは異なるクラスメイトと関わることで、少しずつ他者との関わりを広げている。今後も「いつもの仲間」以外とのコミュニケーションを図る機会を増やし、能力の向上を図る。

### ◆デジタルスキル AI 能力の充実

Photoshop や Illustrator、CAD などのデジタル系の授業に加え、本年度からファッション 3D モデリングの授業を必修授業として開設した。プレゼンテーションなどはすでにデータで作成させ、学修したデジタルツールを積極的に使うことを行っている。今後は AI の活用なども視野に入れていきたい。

**【企業からのご意見を踏まえ以下の改善を検討】**

**◆学生が身につけるべき資質・能力について：**

- ・服飾業界で即戦力として活躍できる専門知識や技術はもちろん、主体性・課題解決力・チームでの協働力、さらに業界外の課題にも柔軟に対応できる幅広い思考力を身につけてほしいと考える。
- ・改善案：基礎的な知識や技術の修得に加え、授業内でグループワークや共同制作を取り入れ、学生同士の協働や役割分担を通じて課題解決力を養う。服作り（モノづくり）を通じて技術的な学びだけでなく、制約（素材・時間・コスト）の中で最適解を見つける力、失敗や試行錯誤から学ぶ柔軟性、人に伝えるためのイメージの言語化・可視化、情報整理・構成力の向上を図る。

**◆今後必要となる知識・スキル、人材育成の方向性：**

- ・他者を巻き込みながら主体的に行動を起こしていく力と、それを実現するためのコミュニケーション能力、専門職においては、加えて技術力やセンスの向上。
- ・デジタルスキル。ファッションテックの進化により、テクノロジーへの理解が重要だと考えている。
- ・デジタルリテラシーの強化。業界全体のデジタル化が進む中で、IT やテクノロジーに強い人材の育成が欠かせないと考えている。

**◆学修領域の強化：**

- ・上記項目は必ず必要になってくる技術なため学んで頂く価値があると考え。まだ社会や企業で十分に活用されていないため、今後の産業としての成長にも期待している。
- ・改善案：今年度よりコース必修で 3D モデリング（CLO）の授業を開講した。従来の「Photoshop」「Illustrator」「アパレル CAD」等のデジタルツールから更に表現の幅が広がるのが期待できる。基本操作と表現方法を学び、3D シミュレーションの即時性を活かして素材特性や服の構造理解を深めている。デジタルリテラシーの向上と共に、新しい表現方法の習得を目指す。技術力に関しては、基礎的な知識や実習教育を現状通り維持する。一方で、技術の伝承にとどまらず、ステークホルダーを意識した製品づくりを重視する。更に、学生が持つ個性を活かしながら、美的センス、商品としてのセンス、機能性を備えたセンスなど、多角的なバランス感覚を育成できる教育へと発展させていきたい。

**【企業からのご意見を踏まえ以下の改善を検討】**

産学連携プロジェクトや一般事業の会社の方が講師となって行う授業など、リアルな社会について学ぶことが出来る実践型教育のことを多く評価いただいていると感じた。また、企業内個人として卒業後に対する評価は高く、服飾に特化した専門教育と実践型教育の成果だと感じている。

◆強化・改善を考えるためのキーワードは下記の通り。

- ・実践型の授業を考える
- ・横軸の連携を深め、他者視点、他者理解、共同・協働する経験と課題解決、問題分析力を高める
- ・企業分析をする
- ・自分で判断するための経験とスキルを積む

◆改善案として

社会を意識した経験は学生にとって働くことのイメージにつながり、その経験により就職活動の際に主体的な活動ができるようになると感じる。また経験を通し自己を認識することで自信につながることを期待できる。グループワークは他者の考えを尊重し、共同・協働する経験になり、その経験が判断力を養うことになるとも考えており、テキスタイルデザインコースでは、実務経験のある教員に担当していただく機会の多い科目があり、実社会をイメージした授業内容になっている。また産学連携やグループワークも行っている。しかしながら、授業での経験を受け身のままで過ごしてしまうと結果に繋がりにくい。そのため、事前の目標設定と目的を持った振り返りが必要と考えている。そのようなポイントを踏まえ、下記3点を強化していく。

- ①質問事項を設定し、目的を持った振り返りを行うことで自信へとつなげる
- ②学びと仕事をイメージし主体的に行動できるよう企業研究をする機会を設ける
- ③友人、教員とディスカッションを行うことで他者の価値を知り、自分の考えを深められるようにしていく。

【企業からのご意見を踏まえ以下の改善を検討】

企業評価では学生に求められる力として「社会やビジネスとの関わり方」「チームで動く力」「自分から進んで行動し仲間を誘って一緒に取り組む力」が挙げられている。これに応えるため、本コースではアクティブラーニングの機会や産学連携プロジェクトを充実させ、役割を分担しながら力を合わせて取り組む経験ができる仕組みを整えていきたいと考える。更に、発表やディスカッションを通じてコミュニケーション力を育み、相互評価し合う仕組みを強化することが必要である。

◆強化ポイント

1. 授業内での対話の強化

授業の中で発表やディスカッションの機会を増やし、自分の考えを整理して伝える力を養う。また、相手の意見を正しく理解し、受け止める「相手の意見を理解しようとする力」を鍛えることで、双方向のやり取りを自然に行えるようにしていく。

2. グループワーク・産学連携の活用

学生同士で力を合わせて取り組むことを前提にしたグループ課題や企業と連携した実習を通じて役割分担や調整を行いながら成果を生み出す経験を積ませる。社会人に近い状況で学ぶ事で、実践的なコミュニケーション能力を育てていきたいと考える。

3. プレゼンテーション教育の充実

デザインを企画する段階から「他者にわかりやすく伝える」トレーニングを実施していく。言葉による説明とビジュアルによる表現を組み合わせる事で、より説得力のある発表力を身に付けられるように育成していきたい。

4. フィードバックと振り返り

発表やディスカッション後には、教員および学生同士で具体的なフィードバックを行い、改善点を明確にしていく。更に、自らの伝え方を振り返る時間を設け、次の発表や議論に活かす習慣を定着させるよう心掛けていく。

◆総括まとめ

コミュニケーション能力の向上には、以下の要素が重要となる。

- ・話す力（発表・プレゼンテーション）
- ・聞く力（傾聴・理解）
- ・伝える力（整理・表現）

これらをバランスよく育てることが重要であり、授業、グループワーク、産学連携の場でこれらを繰り返し実践し、フィードバックを積み重ねることで、実社会で求められる実践的なコミュニケーション能力へとさらに結びつけていきたいと考える。

【企業からのご意見を踏まえ以下の改善を検討】

◆全企業からの貴重な意見と重要と考える指摘ポイント（企業の声）

- ① 実務直結スキルや知識が身に付ついており、業界で即戦力として活躍できるが優れていると感じる。産学連携等実践的な経験を積んでいる事で自主性や課題解決力の高さも目立つ。
- ② ファッションへの情熱やホスピタリティ精神を持ち、自ら課題を見つけて主体的に行動できる人材、チームで協力しながら成果を出せる人材を重視している。また変化に柔軟に対応し、課題解決力や粘り強さを発揮できることも重要。
- ③ 業界では基礎的なデザイン・素材・縫製の知識に加え、デジタルツールや EC・マーケティングの理解、サステナビリティや環境への配慮、顧客体験を向上させる接客・ホスピタリティ力等、幅広いスキルが求められる。また、課題解決力やデータ活用力、異分野との連携力も益々重要になると感じている。
- ④ デジタルリテラシーの強化が重要。業界全体のデジタル化が進む中で、IT やテクノロジーに強い人材の育成が欠かせないと考える。
- ⑤ ファッション領域における専門性や課題解決力は高いが業界外の課題や異分野の大学や企業との連携に関する経験は、やや限定的で、幅広い視点での対応力を更に伸ばせる余地があると感じる。

◆現状把握と改善策へのアプローチ

上記項目について、①、②は本コースの強みであり「産学連携プロジェクト」「プレゼミ」「ブランドマネジメント論」等を中心としたコース設計に組み込んでおり、構成科目を通じて企業連携を担保したアクティブラーニングの機会が多い。今後は更に連携の拡大、深化を図り、加えて個々の役割明確化による「個」の尊重機会創出を強め、主体的行動力の醸成を目指して行く。③のサステナビリティや環境に関しては主テーマとして相応に取り組んでいるが、一方で③、④のデジタルリテラシーに対する具体的施策が弱い事から「プレゼミ」「ブランドマネジメント論」内にて、それら知見獲得強化を進めて行く。また本コースではビジネスコンテスト参画、学会研究活動、他大学共創を通じて②、③、⑤の学修機会を設けているが、極めて限定的である事から、より広範に拡大し、更に異分野の学修機会を「新製品開発論」「プレゼミ」にて特別講師として招聘し幅広い視点における思考力、課題解決力の醸成を目指して行く。本年度の指摘項目については「人間形成」に対する指摘が多い。今後は実社会が希求する「人材開発」について考察を重ねながらコース特性と合致するリテラシー構築を目指し、引き続き改善努力を図っていきたい。

【企業からのご意見を踏まえ以下の改善を検討】

◆総括

企業の人事担当者の方々から貴重な意見をお伺いした中で、ほとんどの企業で服飾専門大学として一定以上の評価は得ているという感触は得られた。特に下記の点を多くの方が挙げており、今後の本学教育で継続的に実施していくべき点と考える。

A 本学のカリキュラムについて、服飾専門の大学として基礎から専門へと適切な内容を網羅しており、一般大学との違いが明確であること。

B 実務家教員による授業、産学連携による実践的な学び、実務に直結したスキルや知識の修得などが評価されている。そこから即戦力として採用に繋がっているケースもある。一方、今後の課題として挙げられている点が下記である。

- ① 産学連携などでは、単なるスキルや知識の習得だけでなく、コミュニケーション能力を鍛える、チームで協働力と主体的に問題解決能力を高める点まで到達すること。
- ② 業界内への興味関心は高いが、業界外や他の専門性について知識や興味をもつこと
- ③ ほぼ全社の意見から、今後はデジタルスキル、新しいテクノロジーの理解の必要性
- ④ グローバル展開が必要な時代の中、語学力と国際感覚、海外ブランドと連携の強化

◆改善案

コースとしての改善策として、最重要点は③である。ファッション業界におけるデジタルスキルはコースコンセプトの中核であり、特に日々進化しているAIの活用スキルアップは必須である。生成AIをビジネスに取り入れているアパレル企業が年々増えていく中、コースで取り入れている Maison AI の新サービスの開発スピードは大変早いですが、複数の授業内で指導は継続的に実施していく。新開発されたサービスを教員自らが常に研究し学生を導く指導力が必要である。今年度は商品企画やECのコンセプト作り、原稿作成、卒業論文のテーマ出しのたたき台に使用している。また、ファッションテックの多くはスタートアップ企業によるケースも多く、業界内の情報収集と人脈作り、若い企業と連携して学生に体験させてスキル向上を目指す。①の産学連携の在り方も再考する。3年生の前期のネットビジネス、後期のささげ業務の産学連携もチームビルディングは必須であり、その成果が社会で結果が出せるという事を明確にして目標の一つとしたい。また②と④についてはコース主任の現在までのグローバルな調査研究を専門科目などで取り入れ、日本の人口減が異業種でも同じく市場規模縮小の懸念と海外展開が必要な意識、国内のインバウンドや労働力問題にも関心をもたせていきたい。また現在は多くの学生が韓国への興味関心が高く、留学や語学修得者も毎年一定数いる。この意欲関心は高めていきたいと考えており、卒業論文のテーマで毎年数人が選択をしているため、韓国ビジネスに強い企業や人との連携から深堀りをさせている。この点は強化していきたい。

担当：初年次教育担当

文責：水野真由美

記入年月日 2025年10月1日

**【企業からのご意見を踏まえ以下の改善を検討】**

企業評価より、在学中に学生に身につけて欲しいと考える資質や能力として、共同・協同する考えチームで動くことの重要性、周りを巻き込む力、コミュニケーション能力を身につけ、実社会で役立つことが求められている。

そのための改善案として「服飾造形基礎Ⅰ」「服飾造形基礎Ⅱ」では、授業課題にグループワークを取り入れている。初心者が多いことを踏まえると専門用語等の理解にも差が生じ、コミュニケーションが上手くとれないケースもある。現在実施しているグループワーク課題については、教員としてそれぞれのグループ、個人個人が積極的にグループワークに参加できるよう科目担当者間での意見交換を持ち、各学科、系での取り組みを参考に、指導内容の強化をしていく。

- ◆同一課題でも学科、系によりその特色を活かした内容に変え、自分の好きを追求し、他人の好きに興味を持てるようにする。ビジネス系のクラスは、ビジネスを意識した視点での捉え方ができるように改善していく。
- ◆今後の人材としてデジタルスキルの強化が必要と考えられていることから、プレゼンテーション実施前の資料作成やその他の課題においても初年次として可能な範囲で学生に取り組みさせるだけでなく、授業資料等もデータ化していく指導に切り変えていく。
- ◆3 学科共通必修の「学修基礎」では、オムニバスの授業展開を実施している。グループディスカッションを通して、引き続きコミュニケーションをとりながら、考える力を養い、社会での対応能力を身につけていく。

以上

## 【企業】2025年度

「学習成果に関わる外部評価」  
学位プログラムの学習評価を把握するための企業調査」 改善案

担当：服飾表現学科・衣装表現専攻

文責：大町志津子

記入年月日 2025年10月1日

【企業からのご意見を踏まえ以下の改善を検討】

### ◆他大学出身の学生と比較し本学卒業生で不足していると感じている点

ファッション領域における専門性や課題解決力は高いですが、業界外の課題や異分野の大学や企業との連携に関する経験は、やや限定的で、幅広い視点での対応力をさらに伸ばせる余地があると感じている。

上記に関して「衣装表現」専攻としては、3年生を対象に数社にお願いしてインターン（校外演習）を行っている。授業単位の問題もあり短期間となってしまいますが、インターン経験前と経験後では学生の意識が大きく変化し、実社会に少しでも触れることがいかに学生にとって良い経験になっているかを実感している。今後も更にこのような機会を創造しながら引き続き取り組んでいきたいと考える。

### ◆在学中に学生が身につけて欲しいと考える資質や能力について

社会や仲間と共創する考えやその上で身に付く力、社会、ビジネスとのかかわり方とチームで動くことの重要性を身に付けて欲しい。特に周りを巻き込む力、コミュニケーション能力は重要と考えている。

上記に関して、「衣装表現」専攻では、チームで動くこととコミュニケーション能力を養うために、グループ制作を実施している。最初はなかなか話し合いができなかったのが、次第にお互いの理解を深め、共同しながら一緒に作業をする事が出来るようになる。この成果から、これからも更にこのような機会を増やしながら共創機会の拡充に努めていきたいと考える。

## 【企業】2025年度 外部評価 改善案

担当：服飾表現学科・スタイリング専攻

文責：中村のん

記入年月日 2025年10月1日

【企業からのご意見を踏まえ以下の改善を検討】

### ◆コミュニケーション能力の重要性

人材能力に関して多くの企業に共通している指摘ポイントが「コミュニケーション能力」であることは大いに注目される。自身も同様に考えており、コミュニケーション機会を絡めたスタイリング授業を積極的に行っている。今回の企業からの貴重な指摘ポイントを重視して今後はスタイリング授業等を通じて、より一層コミュニケーション機会の強化・拡充に努めていきたい。

## 【企業】2025年度 外部評価 改善案

担当：服飾表現学科・VMD専攻

文責：中島ゆう子

記入年月日 2025年10月1日

【企業からのご意見を踏まえ以下の改善を検討】

### ◆チームで働くことの重要性を身につけて欲しいに関して

グループワークを通じたアクティブラーニングの授業を増やすように授業内容の中に組み込んでいきたい。その過程においてグループ単位の場合に、一人が何もやらないと他の学生が迷惑をするなど、運営推進の難しさもあるため、相互に助け合いの心が持てるように配慮した授業運営を行っていきたい。

### ◆コミュニケーション能力の強化について

上記同様にグループワーク機会を積極的に実施し、コミュニケーション能力の醸成に努めたい。その過程を通じて、学生自身が他の学生を巻き込みながら、自分の意見を明確に伝え、他の学生の意見に対して聞く力をつけさせていきたい。

### ◆デジタルスキルが重要

企業の指摘の通り、画像育成AI、3Dモデリングなどのデジタルスキルは重要と考えている。これらの学修機会を4年間の学習課程中で習得できる事が重要である。今後は本学科特性に応じた新規開講科目設置や他学科で実施しているデジタルスキル関連の科目履修について協議を重ねていきたい。

### ◆語学力向上が重要

語学力の向上はボーダーレス化が進行する実社会では大切であると考えている。特に英会話を中心にコミュニケーションの取れる学生、仕事に活かせる英会話力の醸成が重要と考えている。本学科、本専攻における専門領域の基幹科目では無く、教養課程の学修領域ではあるが、大学全体の最適化に向けて授業内容の改善に向けて積極的に意見を伝えていきながら方法論を考えていきたい。

## 【企業】2025年度 外部評価 改善案

担当：服飾表現学科 メディア表現専攻

文責：角倉典彦

記入年月日 2025年10月1日

【企業からのご意見を踏まえ以下の改善を検討】

### ◆コミュニケーション能力、忍耐力、提案力の醸成

大学は、学術の中心として深く真理を探求し専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを本質とするものであるが、一方で将来の人格的な発展の基礎を培うためのものであり、技能や知識の習得のみを目的とするのではないという大学教育の基本的特性が存在する。

企業からの指摘ポイントは、初等教育、家庭内指導、就業後の人材教育にも関わって来る内容と考えられ、各々の学生との接触点における人間形成も重要となって来る。その上で大学の限られた授業時間の中だけでは解決出来ない事でもあるため、高大連携や各ご家庭との連携、企業との連携、教員同士の連携を通じて問題解決に向けた方法論について引き続き協議・検討していきたい。

以上